

ミナミアカヒレタビラ コイ目コイ科

Acheilognathus tabira jordani Arai, Fujikawa, Nagata, 2007

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類(EN)

※記載前(アカヒレタビラ)で評価



撮影：原 竜也

■**選定理由**：圃場整備に伴う用水路の護岸化や河川改修で、本亜種および産卵母貝である二枚貝類の生息環境が悪化している。本県のミナミアカヒレタビラの生息場所はきわめて限定され、生息状況は危機的である。

■**特徴**：全長8 cm程度。体色は淡い青紫色。えらぶた後方の肩部に円形の淡青色の斑点があり、雄の尻びれ外縁が赤くなる。以前はアカヒレタビラ (*A. t. subsp*) とされていたが、2007年に富山県以西の集団として本亜種が記載された。アカヒレタビラ (*A. t. erythropterus*)、キタノアカヒレタビラ (*A. t. tohokuensis*) とは幼魚期の背びれに黒斑があることで区別できる。

■**分布** 県内：日野川水系の一部(米子市法勝寺川、加茂川、新加茂川、小松谷川)、多鯰ヶ池(鳥取市・福部村：当地では現在は確認できない)。
県外：島根県 福井県 石川県 富山県。

■**保護上の留意点**：産卵母貝となる二枚貝類の保護、おもな捕食者であるオオクチバスへの対策、観賞魚業者等による乱獲等に注意が必要。

■**特記事項**：鳥取県特定希少野生動植物。

■**文献**：1, 2, 18, 48.

執筆者：藤田朝彦